

第2回呉市都市計画マスタープラン検討委員会 摘録

- 1 日時 令和4年5月26日（木）13時～15時30分
- 2 場所 呉市役所本庁舎 防災会議室
- 3 概要・骨子

13:00

【江田副市長挨拶】

皆様、こんにちは。呉市副市長の江田でございます。

本日は、お忙しい中、本委員会にご出席をいただきましてありがとうございます。

委員の皆様には、第1回目の会議において多くのご意見をいただきました。それを踏まえまして、前回から少し時間をいただきましたが、都市計画マスタープランの根幹となる全体構想（素案）の検討を進めて参りました。

本日は、この会議を通じてこれからの呉の都市づくりについて活発な議論をいただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

13:05

【議題1】

「呉市都市計画マスタープランの改定に伴うアンケート調査の結果（基礎集計）について（報告）」事務局から説明（資料2）

質疑・意見等なし

13:15

【議題2】

「呉市都市計画マスタープラン全体構想（素案）について」事務局から説明（資料3-1, 資料3-2, 資料3-3, 参考資料1）

13:45

【質疑・意見交換】

構成員からの主な意見は次のとおり

- 第3章について、どういう構成になっているかが分かりにくかったので、都市づくりの主要課題、都市の将来像、都市計画の目標などをフロー図などで示すことができれば分かりやすいのではないかと。
- 分野別の都市づくりの方針について、都市の将来像や都市計画の目標からどのように分野別の方針に考えが反映されているかが分かりにくい。土地利用や交通体系など五つの分野別に分かれているが、新型コロナウイルス危機を踏まえた内容など、改定の中に組み込まなければならない基本的な考え方が、分野別の方針の中に隠れてしまっている。
- アンケート調査結果によると、呉市で策定した計画の認知について、知らない人が9割以上と高く驚いた。呉市には28のまちづくり委員会・協議会という自治組織があり、それぞれで地域まちづくり計画を策定されている。18地域の地域別構想を作成される中でそれぞれの計画が摺り合わせされるよう、互いの計画を提供できるような方法をとるなどすれば、都市計画マスタープランの認知度も高くなるのではないかとと思う。
- 「コンパクト+ネットワーク」を基本にしながらということは理解できるが、新型コロナウイルス危機において、生活様式が大きく変わったと感じている。働き方改革によって、郊外居住地でのテレワークなどが進み、余暇の過ごし方も変化している。そういった中で、これまでの「コンパクト+ネットワーク」の考えを全て継承することに少し違和感がある。

⇒篠部座長

一点目のフロー図については、市民の分かりやすさという観点からも、編集上の工夫でわかりやすくなるよう事務局において検討をお願いしたい。

二点目の分野別の都市づくりの方針との関係であるが、都市計画マスタープランは全体都市像を示した後に土地利用や交通体系といった分野別の都市づくりの方針、地域別構想という構成が一般的なものと理解している。事務局においては、可能な範囲で、それらのつながりがわかるような記載について検討されたい。

三点目の内容であるが、都市計画に関して関心を持って頂けるような啓発の取組について、マスタープランの策定と結び付けていければよいのではないかと助言であった。

四点目については、これまでの「コンパクト+ネットワーク」の考えに新型コロナウイルス危機により顕在化した変化を取り入れた新たな「コンパクト+ネットワーク」の考えについての意見である。私見となるが、大都市圏からの分散居住や地方居住といった動きが新たに出てき

ている中で、そういったことやワーケーションなどの受け皿としての「コンパクト+ネットワーク」ということも新たな考えであると思う。

- 単に人口減少への対応というネガティブな考えではなく、ポストコロナ時代においてICTを生かした新しいライフスタイル、テレワークなどの導入によって夫婦の時間や子育ての時間など、時間的なゆとりが生まれた新しいライフスタイルを提供するといった、ポジティブに捉えたこれからの「コンパクト+ネットワーク」を位置付けられないかと考えている。この考えは、ポストコロナ時代においても、働き方改革や人材確保への対応、従業員の幸福などの観点から変わることはないと考えている。そういったことから、地域拠点の位置付けなどは、生活機能に加え、働くための機能を含めて位置付けた方がいいのではないかと思う。
- 若者が仕事をするに当たり、どこで暮らすのかを選択するとき、仕事の機能的価値や経済的価値と併せ、暮らす環境の情緒的価値というものがあるのではないかと考えている。素案中の基本理念にある「誰もが」という言葉は、東京へ行くような人（マス）を呼び込むのか、それとも若者の多様な価値観や希望に応えるものか、きっと呉は、東京が飲み込めないような多様な価値観を持った若者の受け皿になると思う。例えば、京都府福知山市のように、一人一人の希望が実現できる多様な産業があることで、幸せな人口移動が起こっている都市もある。また、そういった時の居心地の良さは何なのかを考えると、呉市の情緒性であり、豊かな自然環境に近接した環境でゆったりと仕事をしつつ、時折広島市へ出勤するなど、ゆとりが感じられるようなことであると思う。そう考えると、居心地の良さという言葉は、国が進めるウォークアブルなまちなか形成ということだけではなく、もう少し呉市らしいところがあるのではないかと思う。

⇒篠部座長

一点目は広島と呉の関係でも働き方、暮らし方が変わってくるということ、また、生活や仕事の価値観の変化、併せて文化や余暇を含めて総合的な環境を評価して住み・働くことを選ぶ時代の中で、その受け皿としてのあり方を考えておく必要があり、それに応えるための都市整備を進めていく必要があるということであったと思う。事務局においては、そのような考えをもう少し盛り込んでいただくよう検討をお願いしたい。

二点目については、「誰もが」といったときに、受入側の呉市が、多様な人々の生活や働き方を想定する必要があるということであると思う。また、呉らしい居心地の良さについては、アンケート調査結果にもあった海や山などの自然環境、また、海軍の歴史・文化などの呉市の魅力を上手に計画に生かしていく、そういうことだと思う。

○ 目標3の「強靱な産業構造の構築」の「強靱」という言葉について、多様性のあるという言葉が合うのではないかと思う。

○ 経済の世界では、頑強・強い、しなやかである、多様であるということは様々なショックに耐えられることができ、経済の安定的な成長などに寄与すると考えられるもので、意図としては理解できる。しかし、市民に馴染む形と考えると、表現はやわらかくすることはあるのかもしれない。産業が多様化することで、持続可能な産業構造を生むと言う考えには賛成である。

⇒篠部座長

言葉の使い方については、他の計画との関連性なども踏まえて検討いただくようお願いする。

○ 先ほど意見のあった第3章の構成であるが、資料3-1のP35について、例えば、解決すべき課題、都市の将来像、また、目指す姿と縦に並んでいる箇所について、丸四角囲みで記載されている都市の将来像を一番上に、解決すべき課題をその下側に配置してはどうか。

○ 分野別に分けることは理解しているが、目標と分野別の関係について、どの目標が五つの分野別の方針とどう関係するかを記載してはどうか。

○ 資料3-1のP55の交通体系の整備の方針の道路に係る内容のうち、①広域な道路の整備に関して、「概ね10年以内に整備などに取り組む主な道路」とあるが、記載されている路線は、現在全てが整備中のものであり、P56②の地域内道路とのバランスも考えながら表現を再考したほうがよい。

○ 同様に道路の内容のうち、P56の③既存ストックの多目的利用に関して、第二音戸大橋などのインフラツーリズムについては、今後取組を進める際には、橋りょうの管理者として調整いただくようお願いしたい。

○ 交通体系の整備の方針の公共交通に係る内容のうち、P59の②安心・快適に利用できる公共交通環境の整備に記述のある「パーク&ライド」の取組について、これまで取り組んできたものではあるが、本日の会議内容のポストコロナ時代における働き方の変化などを踏まえると、今後進めていくのがよいのだろうかと感じた。もうそのような必要がなくなるのではないかと感じた。

○ P70の都市環境の保全・形成のグリーン社会の形成に係る内容のうち、①グリーンインフラによる都市基盤整備の推進に関して、「多自然型川づ

くり」は、現在は「多自然川づくり」となっているので修正した方が良い。

⇒篠部座長

交通体系などの方針について、表現の修正、また、パーク＆ライドに関する再考などについての意見であったので事務局において検討をお願いする。

また、P35の解決すべき課題や都市の将来像の表現であるが、私の解釈では、課題の認識があり、それを受けて都市の将来像を掲げているという構成にしているものであると思う。いずれにしても、分かりやすさについては、これからの編集で対応することとして事務局で検討してもらいたい。

- マスタープランの内容においても、人口減少が根底の課題となっていると思うが、計画内で人口減少に対する策についてどのように捉えているかが気になるところである。
- 先ほども28地区のまちづくり協議会・委員会の話があったが、地域別構想についても18地域に拘らず、28の地域単位を推奨する。
- 以前の会議でも意見を出したように、広島市で働き、呉市で暮らしていただくといった広島市のベットタウンとしてのあり方も意識しながら都市づくりを進めてほしい。

⇒篠部座長

人口減少に対しての計画内での捉え方、地域別構想の地域単位、また、前回の会議でも提案のあった、広島市のベットタウンとしてのあり方についてのご意見であったので、それらを意識して検討を進めていただくこと、また、地域別構想の策定単位についての検討をお願いする。

- アンケート調査の結果をみると、豊かな自然や豊富な農水産物の評価が高くなっており、先ほど意見のあった多様性のある産業、また、情緒性というところは、農林水産業で担う部分もあると思う。これから検討を進める地域別構想においても、農林水産業との連携に関して引き続き対応をお願いしたい。
- もう一点、農林水産業の強みとして観光・情緒的なこともあるが、ロシア・ウクライナに関する国際状況下において、食料の安全保障の議論が始まっており、今後、農林水産業の本来の生産性そのものがクローズアップされてくると考えている。そういったところは今後、地域においても必要になるものであると考えている。

⇒篠部座長

アンケート調査結果にもあったように、呉らしさ・呉市の魅力として豊かな自然や農水産物が認識されており、今後の都市づくりにうまく活用して欲しいという意見であったと思うので、ご意見の内容を意識しながら、引き続き改定に向けた作業を進めていただくようお願いしたい。

- 資料3-1のP72, P73の景観形成についての感想として発言する。呉市は近年、映画のロケ地や「艦これ」に関するイベントの開催などによって、県外からも多くの人々が訪れている。そのような方々が呉に到着したときに、どういったところで呉らしさを感じているだろうかと考えたとき、個人的にはレンガや海であると思う。今後、新たな道路整備などを行う際には、色彩やデザイン、素材など呉らしさを意識して整備されていくことは大切であると思う。

また、協働による景観の保全について、呉市には、灰ヶ峰や休山の遊歩道を整備されている団体や自然観察会を開催されている団体、子どもの遊び場をつくらしている団体など様々な分野のボランティア団体が活動しているので、そういった団体と連携をしていくとよいと思う。

⇒篠部座長

呉らしい景観形成や景観整備に当たっての市民協働についての意見であったので、意識して取り組んでいただきたい。

- 都市づくりの理念や全体構想の内容について異議はない。持続可能で、活力があふれ、居心地が良く魅力的で、安全な都市になってほしいと誰もが願うことである。20年後の将来を展望し、10年で取り組んでいく計画であるが、この先、ここにいらっしゃるどれだけの方々がこの計画に関われるか、事務局においては、忘れ去られることのないように少しずつ実現していただきたい。
- 呉市に人が土着していくためにはものづくりなどの生業が必要である。事業が存続し、振興していくには、今日、明日とはいかず、時間を要するものである。そういったことから20年後のあるべき姿は、大変興味深い。計画が完成したから、その計画の考えを変えないということではなく、柔軟性をもって、時代に合わせて発展的に、継続的に取り組んでほしい。それが、呉市への企業の土着に繋がり、やりがいのある仕事の創出につながると思う。企業があってこそ、住民が幸せな環境ができるものと思うので、それを意識して取り組んで欲しい。

⇒篠部座長

今後のまちづくりについて意見を頂いたので、しっかり受け止めて計画づくりを進めていただきたい。

- 資料3-1のP41の目標4にあるイメージ図のイラストのように、オープンカフェがあったり、公園ではいろんな人が様々なことをしているようなまちができると、私はとても魅力に感じるし、そういうまちに住み続けたいと思う。
- もう一点、兵庫県から来られた先生から、呉市は造船業のイメージがとても強いまちであると伺った。そういった造船の技術や歴史、風景があり、それらは今後も呉市の財産として継承していけるまちづくりができるといいと思う。

⇒篠部座長

ウォーカブルなまちに対する考え、また、第2章の魅力と強みの中にもあるような、これまで築き上げてきた呉市の強みを上手くまちづくりに生かしていければよいという意見であったと思う。

- 将来像においてSDGsを掲げているが、1から17までの番号にとらわれず、例えば将来像に具体的に関連する内容として優先性を持たせるなど、各将来像で差をつけることも考えられるのではないか。そのような優先順位の違いを示すことで、各目標の狙いをはっきりさせることができると考える。
- もう一点、市外居住者に対するアンケート調査については、観光や産業誘致などは市外を含めた意見やトレンドなども含めて検討すべき内容であることから調査の実施を提案したもので、その意図を計画中に示したほうが良いと思う。例えば、観光や産業など呉市外の主体との連携を図るべき施策分野では、住民意見が適切な施策立案の根拠として十分ではない可能性があることや、将来的に外部の方の呉市定住を目指す施策については、居住環境などに求める利便性の具体的な優先順位について、内部・外部の居住者間で意見の相違があることも考えられ、今後の施策立案等に際しては、目的に応じて合理性の高い意見を採用するという考えが必要である。

⇒篠部座長

SDGsは長期総合計画の中でも関係性が示されているものであり、マスタープランにおいても、より市民に伝わりやすいようにゴールのアイコンを表示しているものであると思う。市外居住者アンケート調査については、市外の方の意見を上手く活用していくということで良いと思う。

- 先般、「艦これ」のイベントが呉市であり、盛り上がっていた。舞台となる鎮守府は呉のほかに横須賀・舞鶴・佐世保と全国に4つしかないもの。「艦これ」には熱狂的なファンの方々が多くいると聞いており、そういったファンの方々を取り込みながら、呉市ならではの資源をまちづくりにどんどん活用して行ってほしい。
- 子育て支援施設で伺った話であるが、呉市には自衛隊の隊員の方が多く住んでおられて、他県から来られる方も多いようである。その奥さんが知り合いのいない環境で子育てをしていくときに、呉市には無料で利用できる子育て支援施設があり、子育ての相談や同じような世代の人との交流ができることから非常に喜んでしていると聞いた。こういった施設は今後も是非呉市に残して、呉市に知り合いのいない人が移り住んできて子育てしやすいまちであってほしいと思う。そういったまちが若い人たちから選ばれるのではないかと思う。

⇒篠部座長

呉市の観光資源として多様性があるということであると思う。先日の「艦これ」のイベントについては、私も街の中で行列を拝見した。こういった呉独自の歴史性のあるものを上手く活用したらどうかという提言であった。また、子育てしやすいまちにすることが重要であるということであったが、これは、本日も話があった人口減少に対する対応であり、前回の検討委員会にもあった、女性が住みやすいまちであること、そういったことをしないと人口減少の歯止めが掛からない、その内容とも関係する内容であったと思う。

15:15

【議題3】

「地域別構想（素案）の検討について」事務局から説明（資料4）
 質疑・意見等なし

⇒篠部座長

議事2の意見交換においていただいた地域別構想の検討に係る意見を踏まえて検討を進めていただきたい。

15:25

【都市部長閉会挨拶】

都市部長の荻野でございます。

本日は、ご多忙のところ、本委員会へ出席いただき、また、貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございます。

我が国におきましては、人口減少・少子高齢化の進行や働き方改革・新型コロナウイルス感染症の拡大などを背景としたICTの進展、平成30

年の豪雨災害によるインフラの甚大な被害からの復興など、都市づくりを取り巻く状況は大きく変化しているところでございます。

こうした中、本日、これらに対応するための都市づくりの大きな方針となる「全体構想の素案」をご提示させていただきました。

本日、構成員の皆様方からいただきました貴重なご意見をしっかりと踏まえ、全体構想の作成を進め、地域別構想につきましても、地域の皆様のご意見を丁寧に伺いながら検討を進めて参りたいと思っております。

本日はありがとうございました。

15:30

【閉会】